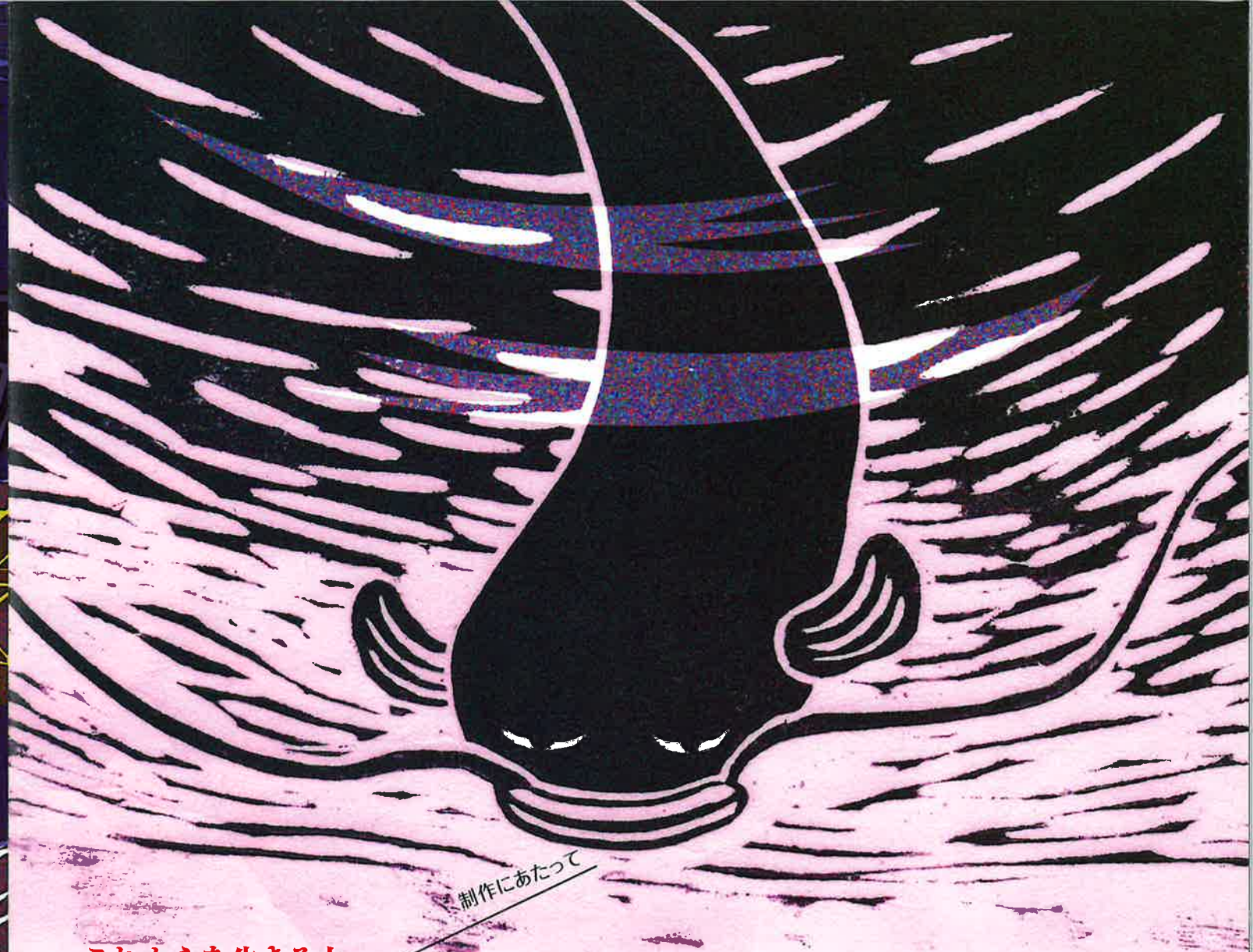


カラス一座の旅芝居

天花 神咲が 沼

命と自然をつなぐ物語
今を生きるようかいたちの

《スタッフ》
作・脚本／金田拓・堀切リエ 演出／中島研 音楽・効果／曲尾友克 振付／桐山良子
衣裳／小峯三奈 美術／浅野井優子 中島研 劇団風の子美術部
制作／浅野井優子・田中美和・吉野由起



これから生きる力

天神森に棲む三匹の妖怪はみな子どもです。見栄っ張りだけど友だち思いのテング、気が強いけれどいざというときには頼りになるキツネ、心優しいけれど引っ込み思案のカッパ。まだまだ力足らずで、テングはちっとも空を飛べないし、キツネは化けても耳と尻尾がついたまま、カッパは相撲で負けっぱなし。しかし、三匹の力がとうとう花開く瞬間がやってきます。天神森を守るため、千代ばあちゃんを助けるため、仲間の夢を本気で応援するためにその力は一気に開花するのです。

今を生きる子どもたち一人ひとりの中に、この地球をも救う力がある。そう信じてこの芝居を作りました。子どもたちは奮闘する三匹の妖怪を応援し、一緒に腹を立て、ともに笑いながら自分自身を重ね合わせてみてくれるでしょう。「これから生きる力」を花咲かせる一助となることを願っています。

劇団風の子の活動

劇団風の子は、まだ戦後の焼野原が残る東京世田谷で、子ども会や子ども文庫の活動をしていた多田徹を中心とする若者たちによって、1950年に始められました。「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考えること」を劇団の理念とし、以来、70年以上、「子どものいるとどこへでも」を合言葉に、北海道から沖縄まで、全国で公演を続けています。また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も積極的に行っており、国際的な文化交流の輪も年々ひろがってきています。

劇団風の子は、これからも子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、視野を世界に広げ、子どもの育つ地域に目を向け、先生方や子どもを取りまくおとなたちと連携し、子どもたちの心の中にとびこんでいきたいと思っています。

〈主な受賞作品〉

「小さい劇場」都優秀児童演劇選定優秀賞
「世界をまわるトランク劇場」児童福祉文化賞
「宝のつるはし」都児童演劇祭優秀賞・児童福祉文化奨励賞
「チワンの星」都優秀児童演劇選定優秀賞
「突然の陽ざし」都優秀児童演劇選定優秀賞・文化庁優秀舞台芸術奨励公演
「風の子バザール」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦

「カレドニア号出帆す」都優秀児童演劇選定優秀賞
「お祭りどんぶり」都優秀児童演劇選定優秀賞
「ぼくたちの南十字星」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
「ガヤガヤとムツリりのたんじょうび」中央児童福祉審議会特別推薦
「おれがあいつであいつがおれで」都優秀児童演劇選定優秀賞
「おはなしちんどん」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦
「陽気なハンス」日本児童演劇協会賞・厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財



劇団 風の子

〒192-0152 東京都八王子市美山町1320-1 TEL: 042(652)1001
E-mail: tokyo@kazenoko.co.jp FAX: 042(652)1013
ホームページ: <https://www.kazenoko.co.jp>

